

(陳受4第11号)

武蔵野市における、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の見直しを求めることに関する陳情

受理年月日

令和4年6月1日

陳情者

### 陳情の要旨

2020年2月から始まった新型コロナウイルス感染症拡大防止・予防として、マスクの着用、手のアルコール消毒、三密回避などの対策が現在も変わらず続けられています。当初、未知のウイルスとして恐れられ、どのように対策をするか、また感染者への治療も確立されていませんでした。しかし、2年以上たった今、変異を繰り返すたびに弱毒化していくというウイルスの特性が分かってきた現在、最初と同じ感染対策を続けることが果たして妥当なのでしょうか。諸外国に比べ、国内での新型コロナウイルス感染症の被害は大変低いものでした。隣国中国からの訪問者が多く、既にこのウイルスに多くの日本人が暴露していたからということです（この新型コロナウイルス感染症は中国武漢からの発生と言われる）。また、若者や子どもの感染死や重症化はほとんどなく、新型コロナウイルス感染症で亡くなった人の平均年齢は82.2歳（東京都発表）で、これは男性の平均寿命を上回るものです。さきに挙げましたが、このウイルスは変異を繰り返すたびに感染力は強くなる反面弱毒化し重症化しなくなると、多くのウイルス研究者は発信しています。

新型コロナウイルス感染症には発見当時と同じ、2類指定感染症の対策が取られていますが、死亡者数や重症者数などを鑑みれば、インフルエンザよりはるかに弱毒であり、この見直しをすれば、どこの医療機関でも診療が行え、簡単に治癒するだろう病気です。そのため、既往症、基礎疾患のある高齢者を中心に警戒をすれば十分と考えられ、子どもや若者、健康な大人・高齢者の生活を著しく制限する、現在の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策は見直しをすべきではないでしょうか。新型コロナウイルス感染症が発見された当初より着用が奨励されてきたマスクですが、これが感染を防ぐとは到底考えられません。ウイルスはマスクの繊維の目よりはるかに小さく、またマスクと顔との間にできる隙間からウイルスの侵入を防ぐことはできません。マスクを常時着用（100%）している病院や介護施設でもクラスターが頻繁に発生しています。

また、ウイルスは新型コロナウイルスだけではなく、人間は常時無数のウイルスにさらされて生きています。マスクの常時着用を余儀なくされているのは、学校生活を送る子ども・若者、会社員などです。子どもは、他人の表情から感情を読み取りコミュニケーション能力を発達させると言われていて、それが、脳と心の発達に欠かせません。マスクを着用することで顔の半分が見えないことにより、その大事な機会を奪われ、コミュニケーション能力の劣った人間になるおそれがあります。

また身体生理機能としては顎の発達を阻害し顎関節症を引き起こすと警鐘を鳴らす歯科医もいます。加えて、不織布マスクには健康に有害な物質（フルオロカーボン、ホルムアルデヒド、合成マイクロファイバー、ほか）が多く含まれ、それだけでも健康被害になると考えられます。

そして、人間の脳は通常呼吸での酸素の体内への取り込みで機能していて、マスクを着けることはその酸素量の不足となり、脳細胞の一部破壊につながります。身

体の他の細胞と違って脳細胞に限り、破壊されたものは再生しません。脳機能が十分発達しない子どもや認知症を早期に発症する高齢者が出るであろうことは想像できます。

加えて、アルコールによる手の消毒ですが、インフルエンザより相当に弱毒と判明した現在、新型コロナウイルス感染症発生以前はしたことの無い消毒を継続する必要がありますでしょうか。細菌やウイルスへの予防なら石けんによる手洗いとうがいです。アルコールによる消毒は、手のひらの常在菌を殺して別な病気を誘発します。これは、常識で考えれば分かることです。また、アルコール消毒の器具を押す際にホルムアルデヒドが発生し、肺に悪影響があるということです。

人間の免疫はウイルスや細菌と触れ合うことで鍛えることができるのであって、過度な感染対策は免疫を弱める結果となります。特に子どもは発育の段階で、ウイルスや細菌に対する免疫力を鍛えることができます。ほとんどの子どもは新型コロナウイルス感染症にかかっても重症化せず、逆に免疫力を鍛える機会を奪われているのです。結果、単なる風邪に罹患しても重症化するということが起きかねません。

次に、学校、飲食店などにおける黙食は、子どもたちから免疫力を鍛える機会を奪うだけでなく、コミュニケーションの場・機会を奪っています。これは大人も同様です。パーティションは飛沫を跳ね返すため空気の対流を阻害しかえって不潔であり、エアロゾルが主な感染原因とされている現在、全く意味がありません。

三密回避も同様です。まちなかでは、マスクを外して数人で座りあるいは歩きながら飲食をしているのを多々見かけます。これは立派な三密での飲食です。それでも、クラスターや感染者が出て感染が拡大したと聞いたことはありません。人が人と触れ合う、コミュニケーションを取ることは生きていく上で欠かせない行為です。それを厳重に制限し厳しく従わせる必要があるほど、新型コロナウイルス感染症は重大な病気ではありません。

以上のことから、武蔵野市における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策は見直しをすべきと考え、武蔵野市に下記のことを陳情いたします。

## 記

- 1 武蔵野市内の商店街及び市役所・市の関連施設等に掲げられている、「新型コロナウイルス感染症拡大防止に御協力をお願いします」といった横断幕を撤去してください。
- 2 「新型コロナウイルス感染症拡大防止に御協力をお願いします。マスクの着用、云々」とアナウンスしながら武蔵野市内を走る車のアナウンスの中止をしてください。（車は市内パトロールとのことで、走ること自体の中止は求めません。）
- 3 武蔵野市から、武蔵野市の教育機関における学童へのマスクの着用中止と黙食などの指導を、できる範囲で意見して改善してください。
- 4 武蔵野市内の公共施設（地域コミュニティセンター、公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団、武蔵野市立図書館等々）でのマスク着用、アルコール消毒、三密回避、などのアナウンスや貼り紙掲示を中止してください。